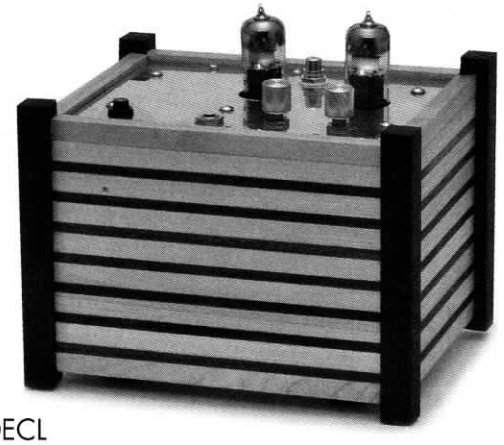
デスクトップで寄せ木細工ケースを作る
ワンダーピュア WP-ECL82AMP
ECL82（6BM8）シングルパワーアンプキット

製作：末永昭二

¥4,860（税込，真空管，トランスセットなどは別売）

完成品の真空管アンプ基板をオリジナル設計の小型寄せ木ケースに組み込んだ．小さな材料から自由自在に必要な部材が作れる寄せ木細工は，小型のケースやスピーカーエンクロージャーなど，さまざまに応用できる．ヒノキの白，ウォールナットの焦げ茶，パドックの赤茶を組み合わせた縞模様の小型ケースの天板から2本の真空管が飛び出したデザインは，机上や棚に置いてもじゃまにならない．しっかりと低域も出ていて，出力わずか1Wを感じさせない力強さは手軽なBGM用に最適



寄せ木細工でケースを

新井悠一氏の新刊『デジタル時代のホーンスピーカー製作』の巻頭カラーの豪華な木製ホーンを見ていると，電動工具も工作室もない自分には，とても作れそうにないと思う．しかし，小型のホーン，特に寄せ木細工は，それほど大がかりな工具を必要としないことがわかる．

そこで，ワンダーピュアのECL82（6BM8）シングルパワーアンプ基板キットを，寄せ木細工のケースに組み込むことにした．しかも，できるだけ小さく，手道具だけを使って，机の上で作りたい．

構造と材料

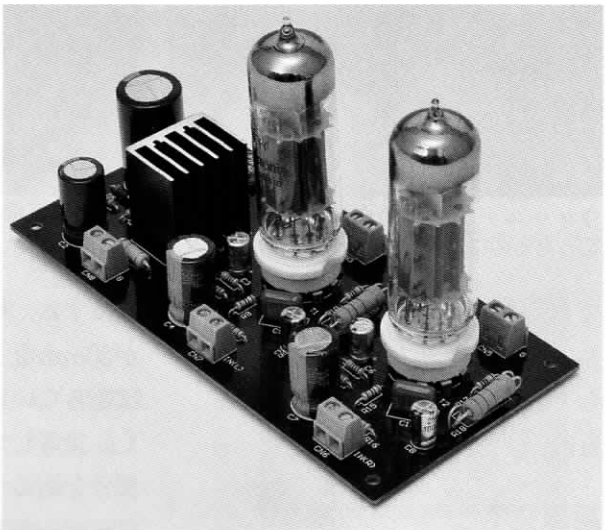
各部の構造などは**タイトル写真**と**図1，2**を見ていただきたい．もっと真空管が「屹立」するデザインにしたかったが，電解コンデンサーの高さのため，これが限界．

材料はヒノキ棒（10×10×900mm），ウォールナット板（5×30×200mm），パドック（インドカリン）棒（15×15×200mm）．近所のホームセンターを何軒か見たが，ヒノキ棒はあっても，色付きの材はなかったので，東急ハンズで購入．天板と底板は120×160×1.5mmのアルミ板で，リアパネルは厚さ2mmの引き抜き材のLアングル．これは丈夫なものにし

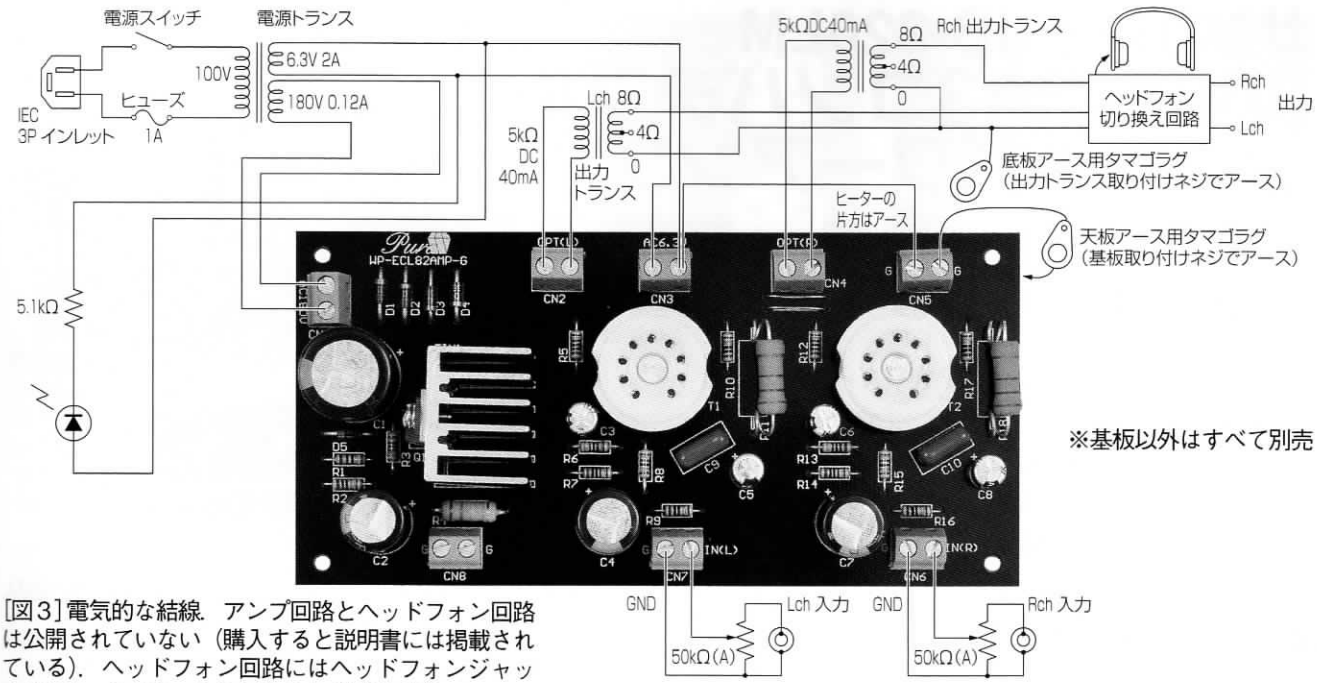
メーカー発表の主な仕様
使用真空管：ECL82（6BM8）×2（別売）
使用半導体：1N4007×4，2N60C×1
出力：1W＋1W（8Ω）
周波数特性：20Hz ～ 30kHz（出力トランスA48-78使用時）
基板サイズ：W141×D72×H33mm：真空管除く）
推奨真空管セット：WP-ECL82TUBE：税込5,940円）
推奨トランスセット：WP-ECL82TRANS：税込7,236円）

●問い合わせ先
共立電子産業株式会社　共立プロダクツ
〒556-0004　大阪市浪速区日本橋西2-5-1
TEL　06-6644-4447

●販売
共立エレショップ（インターネット通信販売）
http://eleshop.jp/shop/
シリコンハウス（店舗）
〒556-0005　大阪市浪速区日本橋5-8-26
TEL　06-6644-4446
営業時間：月～土10：00 ～ 20：00，日祝10：00 ～ 19：00
デジット（店舗）
〒556-0005　大阪市浪速区日本橋4-6-7
TEL　06-6644-4555
営業時間：10：00 ～ 20：00

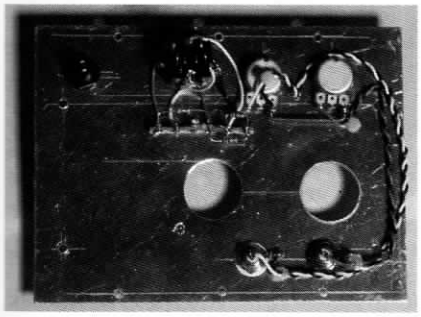


アンプ基板，整流回路までオールインワン．詳細は前号の「キットガイド」か販売元のウェブサイト参照

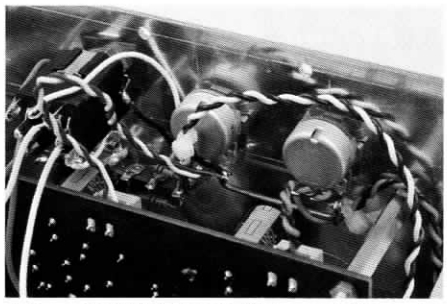


※基板以外はすべて別売

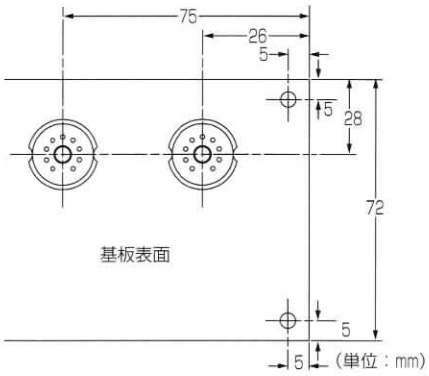
[図3]電気的な結線．アンプ回路とヘッドフォン回路は公開されていない（購入すると説明書には掲載されている）．ヘッドフォン回路にはヘッドフォンジャックのほか，5.1Ω，3.3Ω各2本が別途必要



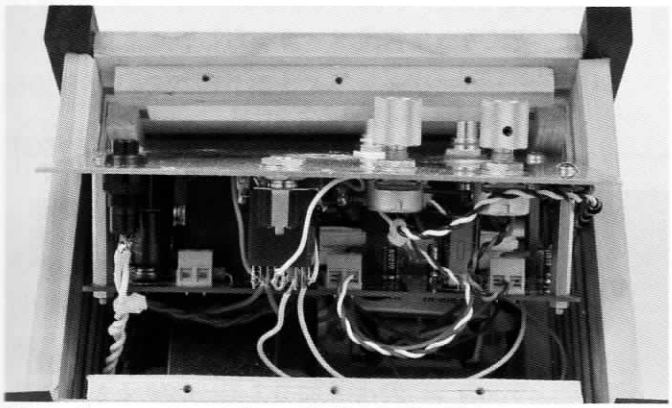
天板にボリュームなどを取り付ける．ヘッドフォン回路（オプション）は1L5Pの小型立てラグに組む



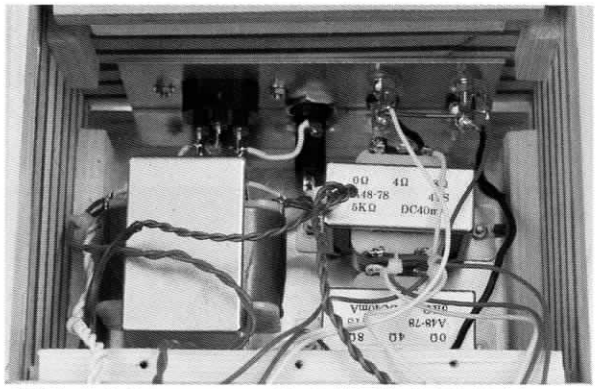
φ2mmの銅線を2つのボリュームのアース端子に渡して空回り止めとした．ヘッドフォンジャックは基板用より，写真のタイプのほうがハンダ付けがしやすい



[図4]真空管ソケットの位置関係(実測)



35mmのスペーサーを使って基板を天板に固定する．それぞれのパーツが接触していないか何度も確認する

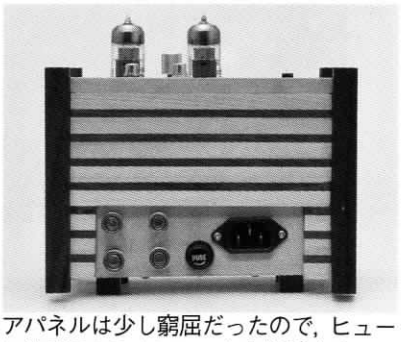


底板にはトランス，Lアングルに端子類を取り付けた

で，天板あたりがかなり熱くなる．ケースのどこかに通気孔をあければ改善するだろう．

もう一つ．真空管が通る孔の位置決めが難しかった．実測したサイズを**図4**に示すが，なかなか狙い通りにならず，少し位置がずれたのは残念．放熱も考えて，孔を大きくすればよかったかも．

初めての寄せ木細工は，出来はともあれ楽しく作業できた．電子工作と木工を組み合わせると，いろいろおもしろいものが作れそうだ．



リアパネルは少し窮屈だったので，ヒューズ一体型のACインレットを推奨する